

Ⅲ「京橋」周辺

・JRの環状線、学研都市線、東西線と京阪電鉄のほか、大阪メトロ・長堀鶴見緑地線が乗り入れ、飲食店街や歓楽街が発展していることから、「キタ」「ミナミ」に対して「ヒガシ」と呼ばれており、南部には「大阪ビジネスパーク(OBP)」のビジネス街が広がっている。

1. JR・京阪「京橋駅」周辺

(1) JR環状線、学研都市線・東西線、城東貨物線と「京橋駅」

(イ)「大阪環状線」

- ・明治28年(1895)5月に、大阪鉄道(のち国鉄→JR西日本)が天王寺駅～玉造駅間を、10月に玉造駅～梅田駅(のち大阪駅に統合)間を開業し、桃山駅(現・桃谷駅)・玉造駅と京橋駅・天満駅が設置された。この路線は明治42年に「城東線」と名付けられた。
- ・大正3年(1914)3月に複線化され、昭和8年(1933)2月には、天王寺駅 - 大阪駅間が電化されて電車運転となり、同区間が高架となった。
- ・大阪駅から西側の西成線については、明治31年に西九条駅まで開業し、昭和36年4月に西九条駅～天王寺駅間が開通して、大阪環状線となった。(昭和39年に高架環状運転)



103系



201系



323系

(ロ)「片町線」(現「学研都市線」)

- ・明治28年(1895)8月、浪速鉄道(のち国鉄)によって片町駅～四条畷駅間が開業し、同31年には木津駅まで延伸された。
- 京橋駅は当初なかったが、明治45年に片町駅構内扱いとして京橋口乗降場が開設されたあと、大正2年(1913)11月に京橋駅に統合され、大阪環状線との乗継駅となった。
- ・昭和7年(1932)12月には片町駅～四条畷間が電化され、昭和63年から「学研都市線」の愛称が定められて、長尾駅までの快速電車が運転開始された。
- ・なお、明治31年(1898)11月に放出駅から分岐して網島駅(東野田4丁目)への線が敷設され、明治34年には、環状線の桜ノ宮駅まで延伸(桜の宮線)されて、一時期、こちらの線が片町線の本線となっていたが、大正2年に廃止され、上記の通り、京橋駅で環状線と結ばれることになった。

(ハ)「JR東西線」

- ・平成9年3月、京橋駅～尼崎駅間の地下路線としてJR東西線が開業し、学研都市線と東海道本線および福知山線とが結ばれて直通運転が開始された。
- これに伴って、「片町駅」が廃止され、東西線に「大阪城北詰駅」が新設された。
- (ただし、京橋駅は従来とおり地上駅であり、駅の西側から地下路線になっている。)

(ニ) JR「京橋駅」

城東区新喜多1丁目2

- ・上記のとおり、明治28年(1895)10月の城東線開業時に地上駅として設置され、昭和8年(1933)2月に高架駅に改築された。ただし、大阪環状線の京橋駅(南北方向)の南部分で東西方向に交差する学研都市線・東西線の京橋駅は地上駅のままであり、2つの

ホームが2層構造になっていて階段等で結ばれている。

駅名は、大坂城北西ぶ寝屋川に架かる「京橋」(橋梁)に由来しているが、橋からはかなり離れていて少し紛らわしいが、この駅名によって、今では「京橋」といえばこの駅周辺一帯地域を指す言葉として親しまれている。(町名は、東野田2・3丁目 & 片町2丁目)

・昭和20年8月14日の大阪大空襲(通称：京橋駅空襲)で、1トン爆弾が片町線ホームに命中し、避難していた2百数十人の方が亡くなる惨事が発生しており、駅南側の環状線ガード横に慰霊碑が建立されている。

寝屋川を挟んで南側に広がっていた「大阪砲兵工廠」を攻撃目標としたものだったが、投下された爆弾の一部が目標を逸れて当駅に着弾したものと考えられている。空襲時、城東線に停車した列車の乗客達も下車し、物陰となる下の片町線ホームに避難していたが、城東線ホームを突き破った1トン爆弾が片町線ホームで爆発し、その直撃を受けた。

・中央改札口は、駅北口の京阪電鉄との乗換および商店街への入口付近にあり、その他に、学研都市線ホームの西口と南口に無人改札口がある。西口からは「イオン京橋店」と繋がり、連絡橋で「大阪ビジネスパーク(OBP)」と結ばれている。

なお、北改札口は、当初、駅東側の商店街との関係もあり、京阪電鉄・京橋駅も東北側にあったため、改札前通路は東側のみに通じていたが、京阪電鉄・京橋駅が高架化に伴って駅西側に移設されたこともあって、西側への通路も設けられた。

・高架の環状線ホームは相対式ホーム2面・2線方式で、地上にある学研都市線ホームは、当初、島式ホーム1面・2線方式であったが、単式ホーム2面・2線方式に改められ、現在は可動式ホーム柵(安全柵)が設けられている。

(ホ)もと「淀川貨物線」

・城東線の高架化と電化によって同線の天満駅・桜ノ宮駅での貨物取扱が廃止され、その代替として、淀川駅(貨物駅)が昭和2年(1927)12月に開設され、淀川駅と京橋駅および淀川駅と放出駅とを結ぶ貨物線が新たに開設された。

その後、昭和4年3月に吹田操車場～赤川鉄橋～放出駅間、昭和14年10月に放出駅～竜華操車場間を結ぶ「城東貨物線」が開設されたため、淀川貨物線は異信号所によってこの城東貨物線と結ばれた。

・また、片町線の電化に合わせ、昭和7年10月に、淀川駅に隣接して「淀川電車区」(車両基地)が設置され、城東線の車両は、京橋駅から淀川貨物線の路線を経由してこの淀川電車区に格納されることになった。(片町線の車両は放出駅から引き込まれた。)

・淀川貨物線は、昭和36年4月に京橋～淀川駅間、同57年11月に放出～淀川駅間が廃止されたが、淀川電車区は引き続き存続し、昭和60年3月に東大阪市に移設された。放出への淀川貨物線は、京橋駅のすぐ北を東西に走る現・国道1号線の北側を通っていたが、その線路跡が今も緑地帯や小公園に整備されて残されている。

また、淀川駅および淀川電車区の跡地は、その後、大阪市住宅供給公社などによる大規模高層住宅団地「桜宮リバーシティ」になっている。(前章・31頁参照)

(なお、城東貨物線の路線は、その後、複線・電化工事が行われ、平成31年3月に新大阪駅から鳴野～放出～久宝寺駅を結ぶ「おおさか東大阪線」として生まれ変わった。)

(2)京阪電鉄と「京橋駅」

(イ)京阪電鉄

・京阪電気鉄道(株)は、日本最初の銀行である第一国立銀行を設立し、“日本資本主義の父”と呼ばれた渋沢栄一を創立委員長として、明治39年(1906)11月に創立され、同43年4月に、「天満橋」～「五条」間(46.57km)の京阪電鉄本線が開業した。

当初計画での大阪側起点は、金融の中心街であった「高麗橋東詰」とされていたが、既に「大阪駅～淀屋橋～天満橋」間の市電敷設計画をたてていた大阪市から反対され、天満橋南詰を起点とすることに変更せざるを得なかったという経緯がある。

当初のルートは、天満橋駅から東野田まで現路線の北側をカーブを描いて走り、現・桜宮幼稚園付近から東北方向に現「コムズガーデン」を斜めに横切る形で京橋に至ったあと、

現「グランシャトー・ビル」北側の飲食店街を東進し、蒲生桜小橋の元「扶桑会館」があった付近に「蒲生駅」が設けられて、そのあと向きを北に変えて野江、森小路、守口へ向かっていた。(天満橋駅から蒲生駅の間には、京橋駅と野田橋駅があった。このうち、京橋駅は、文字通り大阪城北側に架かる京橋(橋梁)北詰にあったが、開業後、約8ヵ月で廃止され、野田橋駅は、その後、片町駅に移設・改称されJR片町線との乗継駅でもあったが、後述の通り昭和44年11月に京橋駅が現在地に移設された時に統合されて廃止された。)

・開業時の京阪電鉄本線は、鉄道専用でなく路面を走る併用軌道として敷設されたもので、特に蒲生駅～守口駅間においては急カーブも多く、その後の乗客増への対応やスピードアップ化に限界があったため、昭和2年(1927)1月から新たな専用軌道線の建設工事に着手し、昭和6年10月に「蒲生変電所」南側～守口間を高架とする新路線に移設され、翌7年10月には、国道1号線の拡幅と市電の敷設工事および電化工事が進められていた国鉄・城東線との乗継の便も考慮し、「蒲生駅」(のち、「京橋駅」に改称)が国鉄・京橋駅の北側に移設された。

・その後、昭和38年4月に天満橋駅～淀屋橋駅間の地下新線が延伸開業し、昭和44年11月には野江～天満橋間の高架化が完成して「京橋駅」が現在地に移設された。

(ロ)京阪「京橋駅」

都島区東野田2丁目1

・前述の通り、開業時には蒲生桜小橋付近に「蒲生駅」として設置されたもので、昭和7年(1932)10月に国鉄・京橋駅北側に移設され、昭和24(1949)年10月には「京橋駅」と改称されていたが、昭和44年10月、現在地に高架駅として新築・移設された。

・国鉄・京橋駅北側(現「グランシャトー」の場所)に移設された駅には、その西端に国鉄・京橋駅とを結ぶ南北道路が交差し、踏切が設けられていた。このため、守口・京都方面行きホームと国鉄・城東線(環状線)との乗換にはこの踏切を渡る必要があり、ラッシュ時には踏切待ちをする人々で長蛇の列ができ、混雑を極めていたことが思い出される。

・昭和24年10月に、駅名が「京橋駅」に改称され、昭和27年には京都行ホーム北側に隣接して直営の「京阪スーパーマーケット京橋店」が設けられた。

・昭和44年11月の高架化に伴い、現在地に駅ビルが新築されて京橋駅も移設され、JRとの乗換や商店街および周辺地域との往来も非常にスムーズになった。

・現在の「京橋駅」は、東側の駅前広場に面して中央改札口があり、大階段と上下エスカレーター、エレベーターによって4階のホーム(島式2面4車線方式)と結ばれている。駅西口にあたる2階の「片町口改札口」からは、屋根付連絡デッキによって、南側の「大阪ビジネスパーク(OBP)」と結ばれ、デッキ途中からは「JR京橋駅」とも結ばれている。

2階と3階部分は、「京阪モール」と繋がっており、駅3階に連絡改札口がある。

また、3階駅構内(改札口内)には、薬品・化粧品の「コクミン」、お菓子のデパート「よしや」のほか駅パブ、たこ焼き店、スイーツ店、コンビニが店を構えており、京都方面行きホーム売店で売られている立食いソーセージは昔から京橋名物として有名になっている。

・本館の1階と地下1階は「京阪百貨店・モール京橋店」として、1階にはファッション・雑貨や洋菓子の店が並び、地下1階は食品館になっている。

・7階建ての西館は「京阪モール」のショッピング街で、平成2年3月に建替えられた北館(地上15階・地下1階建て)の6階までは「京阪モール」の増床部分で、7～15階は「ホテル京阪 京橋 グランデ」(客室数:214室)になっている。



(3)大阪メトロ・長堀鶴見緑地線

・平成2年(1990)に鶴見緑地で開催された「国際花と緑の博覧会(花博)」会場へのアクセス路線として、同年3月に京橋駅～鶴見緑地駅間が先行開業したもので、平成8年12月には心斎橋駅まで延伸され、平成9年8月に門真南駅～大正駅間で全線開通した。

計画当初は、大阪府庁へのアクセスとして天満橋から上町筋を南下する経路が検討されたが、難波宮跡と法円坂遺跡のある法円坂交差点の地下に中央線との接続駅を新設する必要から、止む無く森ノ宮駅で中央線と接続する玉造筋ルートが選定された

・日本初の「鉄輪式リニアモーターミニ地下鉄」が採用され、4両編成のワンマン運転で運行されている。…ワンマン運転のため、全駅で島式ホームを採用し、運転席を車両の右側(ホーム側)に設置している。(乗降客の確認とドア操作をやりやすくする)

⑨ 鉄輪式リニアモーター＝回転式モーターを使用せず、線路の間に電磁石の稼働式磁場付ガイドレールを設け、ガイドレールの磁場(S極とN極)を前後に移動させることで車体の固定式磁場が引っ張られて前後への直線的推進力を得る方式で、モーターや減速機が不要になるため車両が小型化でき、地下鉄の場合はトンネルの径も小さくてすむ。また急坂や曲線にも強い。磁気浮上式でなく鉄輪式のためレールの上を走行する。

「京橋駅」 都島区東野田2丁目6

・ホームは地下3階で、改札口(1ヶ所)とコンコースは地下2階にあり、地下街の「コムズガーデン」(次記)に直結するとともに、地下道で京阪電鉄の中央改札口・片町口改札と結ばれている。

・当駅前後の長堀鶴見緑地線は、京阪本線がかつて走っていた跡地の下を通っている。

(4)「京橋コムズガーデン」 都島区東野田町2丁目6

・平成2年3月、地下鉄・長堀鶴見緑地線「京橋駅」に離接して開設されたサンクンガーデン(沈床庭園)式の開放的な地下グルメ街。

吹き抜け式中央広場を囲んで地下1・2階に和・洋をはじめ、麺類や居酒屋、カフェ等さまざまなグルメ店が並び、地上部は京橋公園になっている。

(5)新京橋商店街と京橋中央商店街

「新京橋商店街」(別名:ビギン商店街)

・国道1号線を横切るJR環状線ガードの東側から北に伸びる商店街で、入口西側にローマの「真実の口」を模したモニュメントが飾られている。

北側に連なる「京橋中央商店街」までの約170m、幅5.4mの通路両側に66店舗あり、その3割が飲食店である。

・昭和23年(1948)に商店会が結成され、昭和40年にアーケード、平成3年にカラー舗装が完成している。

入口から少し北側を、もと淀川貨物線の線路跡が横切っており、緑地帯に整備されている。

また、この商店街筋は、かつての京街道にあたる道筋で、中程にある広場(ビギンドーム)に「京街道顕彰碑」が建てられている。

「京橋中央商店街」 都島区東野田町5丁目

・新京橋商店街の北側広場「京橋ドーム」をはさんで、北側に約260m伸びる商店街で、物販中心の店舗が94店舗並ぶ。

・昭和49年9月にアーケードが完成、平成元年5月にカラー舗装化されており、「リブ・ストリート」という愛称で呼ばれている。



(6)京橋駅前商店街と「グランシャトービル」 (東野田町3丁目9)

・JR高架の東側に沿い、JR京橋駅から国道1号線まで広がる飲食店街で、勤め帰りサラリーマンの憩いの場となっており、その間にはいくつかのパチンコ店も並ぶ。

・ガード沿いの中程(もと京阪・京橋駅の跡地)に、昭和46年11月開業の地上7階・地下1階建て総合レジャービル「グランシャトービル」が完成した。

文字通り(グランシャトーはフランス語の「大きな城」)、西洋の古城を模した外壁が黄色に塗られたビルで、「京橋はエエとこだっせ！ グランシャトーがおまっせ！」のCMソングで一躍有名になった。

・ビル内には、パチンコ店・カラオケルーム・ゲームセンター・サウナなどがあり、かつてはキャバレー「香蘭」があったが、平成27年2月に閉店してしまった。

(7)もと「イオン京橋店」 都島区片町2丁目3

・JR京橋駅西口の北側に、昭和46年11月、「ダイエー京橋店」としてオープンした。いずれも5階建ての東館と西館がならぶ大型スーパーマーケットで、若者向け衣料品専門店が中心であった。平成28年に「イオン京橋店」と改称されていたが、建物の老朽化もあり、令和元年9月をもって閉店し、現在、再開発による店舗建て替え工事がなされている。

(8)「NTT西日本研修センター」(もと阪大工学部) 都島区東野田町4丁目15

「大阪大学工学部」

・明治29年(1896)、「大阪工業学校」として中之島に設立され、明治34年に旧制専門学校「大阪高等工業学校」となって、大正12年(1923)にここ網島町(東野田校地)に移転した。その後、昭和4年(1929)に「大阪工業大学」となったあと、昭和8年4月に「大阪帝国大学工学部」(その後、「大阪大学工学部」)としてこの地にあったが、昭和45年9月に吹田キャンパスに移転した。

「NTT西日本研修センター」

・その跡地の東側部分は、電電公社の研修センターとなり、民営化(昭和60年)を経て、平成11年7月に「NTT西日本」が設立され、「NTT西日本研修センター」として引継がれた。
・平成26年3月、もと1号館あとに研修センターの本館(7階建て)が新設され、平成29年8月には、その南側に11階建ての新京橋ビルが新築されてNTT西日本・大阪支店のほかグループ各社の本店が入っている。
・現在、中央区馬場町にあるNTT西日本・本社をこの地に移転する計画が発表され、令和3年10月竣工予定で、研修センター西側部分に地上12階・地下1階建て新本社ビルの新築工事が行われている。

(9)「大阪市立東高等学校」 都島区東野田町4丁目15

・大阪大学工学部跡地の西側部分は大阪市が引き取り、「大阪市立東高等学校」になっている。(同校中庭に「阪大工学部跡地の碑」が建っている。)
・同校は、大正12年(1923)3月に実業学校の「東区女学校」として船場(北久太郎町)に設立され、「大阪市立東高等女学校」へ昇格したあと、昭和23年(1948)の学制改革によって「大阪市立東高等学校」に改編され、市立汎愛高等学校と交流して男女共学となった。
・昭和54年4月に現校地に移転してきた。住所地の都島区にあわせ、都島高等学校への改称も検討されたが、近隣に類似の都島工業高等学校があったこともあり、現校名が継承された。市街地にもかかわらず、300mトラックと100m直走路を確保できる広さのグラウンドを有している。
・令和3年度で市立高校としては廃止され、令和4年4月から府立高校になる予定である。

(10)「開明中・高等学校」 城東区野江1丁目9

・大正3年(1914)、大阪商業会議所(現:大阪商工会議所)が、外国貿易に携わる人材育成のため、英語・中国語・ロシア語の語学教育に重点をおく専修学校として「大阪貿易語学校」を、大阪市東区北久宝寺町に設立し、大正11年に東野田9丁目(現・中野町4丁目の「都島区役所」所在地)に移転した。
・昭和23年(1948)の学制改革によって、「大阪貿易学院高等学校」と改編され、現校地に移転した。
・平成3年に「大阪貿易学院中学校」を併設、平成5年に現在の「開明中学校・高等学校」と改められた。もともとは男子校であったが、平成13年に中学校が、同16年に高等学校が男女共学となり、中高一貫校になっている。

・1980年代末頃から大学進学指導に力を入れ始め、国立大学進学率が半分を超えており、平成18年には、中学・第1学年に特別進学クラス(「スーパー理数コース」)が設置されている。

・創立100周年にあたる平成26年4月に、地上8階・地下1階建て新校舎が完成し、2～7階に中・高校の各種教室があるほか、8階には屋内運動場、地下1階に屋内プールが設けられている。

(11)「大阪市立桜宮中学校」 都島区東野田町5丁目16

・昭和23年(1948)4月、「大阪市立都島第2中学校」として北区新川崎町の市立桜宮高等女学校旧校舎を転用して開校し、翌24年5月に「大阪市立桜宮中学校」と改称した。

昭和27年10月、現校地(旧・大阪市東野田国民学校跡)に移転した。

児童数の増加が続いたため、昭和32年には中野公園に分校が開設され、翌33年に独立して「大阪市立都島中学校」となっている。

その後も校舎狭隘であったため、昭和37・38年度に鉄筋4階建校舎が建てられ、さらに同52年に鉄筋3階建校舎が増築されて、同62年にはグラウンド・プールも整備された。

(12)「京橋グリーンハイツ」(もと「高瀬染工場」) 都島区都島南通2丁目1～4

・JR京橋駅の北側で大阪環状線の東沿いに15階建て4棟からなる大規模マンションで、1号棟(287戸)と2号棟(295戸)は昭和57年(1982)11月に、3号棟(231戸)と4号棟(203戸)は昭和58年7月に竣工している。

この地は、もと「高瀬染工場」の工場跡地である。

「高瀬染工場」

・明治32年(1899)創業の染色会社で、大正5年(1916)に都島工場を建設し、昭和55年に石川県に移転するまで操業していた。(平成9年に業績悪化で倒産した。)

もと「雪印乳業・大阪工場」とその跡地 都島区都島南通1丁目21

・この北側には、昭和31年5月に新設された「雪印乳業・大阪工場」があったが、現在は、平成15年12月竣工の「リビオ都島パークスクエア」(18階建て・194戸)と平成16年9月竣工の「イズ大阪 プルミエの森」(15階建て・224戸)の2つのマンションになっており、一画には、生協「おおさかパルコープ」(昭和50年設立)の本部がある。

・雪印集団食中毒事件

平成12年6月に大阪工場で製造・出荷された雪印低脂肪乳と”のむヨーグルト”など加工乳から集団食中毒事件が発生し、大きな社会問題となった。直接原因はその素材を供給した北海道の大樹工場で停電があり脱脂乳に病原性黄色ブドウ球菌が増殖したことにあったが、事件発生後の会社対応の不手際もあり、大阪工場は無期限操業停止を命じられ、平成13年3月末に閉鎖された。

(13)もと「扶桑会館」(現「エディオン京橋店」) 都島区蒲生1丁目9

・蒲生桜小橋の南東角で、かつて京阪電鉄「蒲生駅」のあった近くに、「扶桑会館」があり、現在は「エディオン京橋店」になっている。(その前は「共栄社油脂化学」の工場であった。)

「扶桑会館」

・昭和48年(1973)に開設されたボウリング場(「ボウルメイト京橋」)で、80レーンを有し、ゴルフ練習場やバッティングセンターもあったが、平成19年に閉鎖された。

「エディオン京橋店」

・平成25年12月にオープンした4階建て商業施設で、家電売場のほかゲーム・おもちゃ中心のNever Land もあり、スーパーマーケットの「ライフ」も入っている。

「共栄社油脂化学」

・明治37年(1904)創業の石鹼メーカーで、同44年に当地に本社工場を設置し、操業されていたが、奈良に新工場が開設されたため、昭和46年に閉鎖された。